

2.16 絶対王政の時代②：教科書 p.76～77、資料集 p.124～125

＜イギリスの絶対王政＞

〔イギリス〕

◎女王 エリザベス 1 世 (在位：1558～1603)

- 1559 年 統一法 成立…イギリス国教会という独自の宗派を確立した！

【補足：読んでおこう】

- イギリスでは、エリザベス1世の父にあたるヘンリ8世がイギリス国教会という宗派をつくりあげていた。
- 彼はもともとカトリックに熱心だったが、カトリックで禁止されている離婚をめぐる教皇(カトリックで最も権威のある人物)と対立したため、独自の宗派をつくることにしたのである。(結局ヘンリ8世はその生涯の中で6度結婚している)

- 1600 年 東インド会社を設立

…アジアでの貿易に力を注ぎ、特にインドを支配した。

※オランダの東インド会社とは名前が同じだけで別物！

- エリザベス 1 世は生涯独身を貫いた

Q. 彼女はなぜ独身を貫いたのか？

⇒A. 国同士の勢力争いに巻き込まれないようにして、イギリスの国益を守るため。

＜イギリスにおける 2 つの市民革命＞

〔ピューリタン革命〕

- エリザベス 1 世の死後…王家はテューダー朝からステュアート朝に！

◎国王 ジェームズ 1 世 (在位：1603～25)

- 国王の権限は神から授かったものだとする王権神授説を唱えた

⇒議会を軽視して、自分勝手な政治を行おうとする

◎国王 チャールズ 1 世 (在位：1625～49)

- 1628 年 「権利の請願」を議会が提出…国王の権利を制限するもの

- 1629 年 国王、反発して議会を解散させる

- 1639 年 イギリス北部のスコットランドで反乱発生！

↓これがきっかけとなり…

- 1642 年 ピューリタン革命 開始(～1649 年)

(※「ピューリタン」はイギリスにおけるカルヴァン派の呼び名で、革命の中心を彼らが担ったことからその名がついている。)

○指導者：クロムウェル (1599～1658)

- 1649 年 国王チャールズ 1 世を処刑

⇒王政の廃止、共和政の開始

- 1653 年 クロムウェル、護国卿に就任し軍事独裁を開始

〔名誉革命〕

- ・クロムウェルの死後⇒王政が復活する

◎国王 チャールズ2世(在位：1660～85)

◎国王 ジェームズ2世(在位：1685～88)

↓

2人とも専制的だった上にカトリック化を進めようとしたため、イギリス国教会の信者が多い議会からの反発を招いた！

↓

- ・1688年 **名誉革命** 開始(～1689年)

…新しい国王夫妻を**オランダ**から招いた

新国王：**ウィリアム3世**、新女王：**メアリ2世**

Q. 名誉革命は、なぜ「名誉」なのか？

⇒A. **国王**が代わるという一大政変にもかかわらず、**血**が流れることなく革命が終了したため。

- ・1689年 「**権利の章典**」を公布

…国王の権利を制限するもので、**議会**主導で政治を進めることを定めた！

その後…

◎国王 ジョージ1世

- ・1721年 **ウォルポール**内閣が成立

…**議院内閣**制の原型が生まれ、国王の政治的な権限は小さくなった。

それを示す「王は**君臨**すれども**統治**せず」という言葉が残った。

【補足：読んでおこう】

・議院内閣制というしくみは現代の日本と同じものである。

・イギリスには現在エリザベス2世が女王の座についているが、彼女は政治的な権限を一切持たない。つまり、君臨しているが統治はしていない。